

理事長所信

理事長 佐藤 昂紀

【はじめに】

「何のために自分は JC をやっているのだろうか。」

「何でこんなにも自分の時間を割いて JC をやっているのだろうか。」

何度考えたことであろう。

26歳の時に京都から札幌に帰ってきた私に、OBでもある父から「JCに入れ」と言われ、青年会議所の理念も良く理解せず、青年会議所に何の目的も持たずして私は入会したのであった。

私は入会1年目にして日本青年会議所への出向の機会にも恵まれ、札幌青年会議所の同期やメンバーだけではなく全国各地に多くの仲間ができた。仲間と会うのが楽しみで、JC活動に積極的に参加するようになり、参加するとまた新たな仲間が増えていった。

私は、仲間をつくるという目的を持ち、JC活動に参加するようになった。

参加していると、JC活動で役割を与えてもらえるようになった。入会するまでPCすら持っていない私であったが、議事録や資料を作成していく中で様々なスキルが身につく、出来なかったことが出来るようになる嬉しさに、私は次第に自己成長を追い求めるようになったのだ。

成長とともに毎年役職の聲が掛かるようになった。自分のJC活動を評価されているようで、どこか嬉しくなる。私は更なる自己成長を求め、毎年役職を受けた。役職には責任と役割がある。もちろん楽しいことばかりではない。大変なことや辛いことだってある。今ならよく分かる。この修練は上役や先輩諸氏からの愛を前提とした成長の機会であったのだと。

多くの成長の機会により愛を受け継ぎながら育った私は、気付けば、「恩返し」ではなく「恩送り」が自然とできるようになっていた。

自分のためにJC活動をやっていた私が、気付けば、札幌のまちのために、見ず知らずの人のために、何の見返りも求めずエゴもなく行動を起こすことができるようになっていたのだ。

JC活動によって多くの人々から無償の愛をいただき、自己実現の欲求を満たされた私は、自己超越の欲求階層に至ろうとしているのであろう。

青年会議所における自己成長とは単なるスキルアップだけではない。この奉仕こそが青年会議所における最大の自己成長なのだ。

【理念の共感】

世界的な企業である Starbucks 社の社内研修では、「Our Mission and Values」という企業ミッションと行動規範の浸透に多くの時間を使うことで、スタッフの大半がアルバイトであるにもかかわらず、質の高いサービスを維持しています。企業にとって企業理念、経営理念の浸透は、社員の判断や行動の価値観が統一され、エンゲージメントの向上につながる企業の成長にとって必要不可欠なものであります。40歳を迎え卒業していくと同時に、毎年多くの会員が入会する我々の組織こそ、理念の浸透に重きを置いた人財育成が必要なのではないのでしょうか。我々は VUCA 時代と呼ばれる現代においても、市民から本当に必要とされる組織であり続けなければならないのです。

【共感を生み自走する JC 運動】

我々が生み出す運動は本当にまちを変えることができているのでしょうか。我々は毎年多くの事業を開催します。事業を構築し、開催の準備を行っていく中で、事業の開催自体が目的になってしまいがちであります。「人も沢山来て、良かったね」と本当にまちが変わったのか良く分からない事業であってはなりません。事業を行うのが目的ではないのです。ましてや、事業を行い自己満足で終わってはならないのです。まちを変えるには風土と制度を変える必要があります。しかしながら、1年では大きく変えることができないのも事実です。だからこそ、市民からの共感と、「人」、「物」、「資金」が集まる仕組みを構築し、自走していく事業を創らなければいけないのです。

【共に札幌のまちを創る】

最大震度7の北海道胆振東部地震により札幌を含む北海道全域に及ぶブラックアウトが発生してから5年目を迎え、地震や自然災害が全国的にも少ない札幌に住み暮らす我々は、記憶とともに災害への意識が薄れつつあります。我々には、先人たちが創り上げてきたこの札幌のまちを守る義務があります。平時からの市民の防災意識を高めるとともに、自然災害からの復興のためのプラットフォームを創り、安全から安心を生み出し、安心から笑顔が生まれる札幌のまちを、市民をはじめとするステークホルダーを巻き込みながら創っていきましょう。

【笑顔が溢れるまちを目指して】

札幌の合計特殊出生率は政令指定都市の中で最低水準であり、少子化は未来の生産人口の減少につながる重要な社会課題です。2023年1月に札幌市は「ベビーファースト運動」に賛同し「ベビーファースト宣言」を行いました。ベビーファーストな社会を創る取り組みは、行政だけではなく、民間企業の業種や業態関係なくアクションを起こすことができるものであります。我々は子育て世代の代表として、子どもを産み育てたいと思えるベビーファーストなまちづくりを牽引

するとともに、子どもを産み育てやすい環境を創るイニシアティブを握らなければなりません。子どもや、妊産婦、子育て世代の暮らしやすいまちは、全ての市民が暮らしやすいまちになると確信しています。

【夢に溢れる未来を創る】

若者は札幌のまちに夢や希望を抱けているのでしょうか。日本の若者は、諸外国の若者と比べ政治に対する関心度が非常に低く、札幌においても2023年に行われた市長選では若い世代の投票率の低さが際立つ結果となりました。若者は自身が社会に影響を与えることができると実感をもっておらず、政治を他人事として捉えてしまっています。選挙権を有する者の年齢が満18歳以上に引き下げられた今、若者には政治の仕組みや知識だけではなく、主権者としてまちの課題解決を主体的に担う力が求められているのです。政治を自分事として捉え、札幌のまちをより良くしたいと考える若者を一人でも増やし、若者が夢を描き、夢で溢れる札幌のまちを創ってまいりましょう。

【共感により広がる輪】

札幌青年会議所の72年間という歴史の中で、先輩諸氏の手により造られた多くの素晴らしい運動はどれだけの市民に知られ、そして、札幌青年会議所は市民からどのように捉えられているのでしょうか。広報には様々な役割があります。社会からの期待や評価をフィードバックし改善を積み重ね、社会との信頼関係を構築することで、運動の継続と長期的な成功をもたらすこともできるのです。また、伝える方法は言葉や、HP、SNS媒体だけではなくありません。我々の態度や姿勢、行動一つから札幌青年会議所の価値観が伝わることを理解しなければならないのです。社会のトレンドを把握しながら、受け取った相手がどのように捉えるのかを考えつつ広報することが必要なのです。

【JCのつながりを生かして】

あなたは仲間が住み暮らす国と戦争をしたいと思いますか。1951年戦後の激動の時代に、日本青年会議所が国際復帰を果たしたのは、日本国が国際復帰する前のことでありました。ラモン・ロザリオ JCI 会頭(JCI フィリピン)は、「JCには国境も民族もない。それは、全世界の青年のものである。その誇りにおいて、我々は今ここに、かつての敵国日本のJC代表団を、心からなる歓迎をもって迎えようとする。」と演説し、日本青年会議所はJCIに正式加盟することができました。世界平和に寄与することは青年会議所の責務であります。青年会議所の魅力である国際の機会を最大限に活用し、世界中に仲間を増やしていくとともに、民間外交によって札幌のまちの発展につなげてまいりましょう。

また、私は出向経験の中で数多くのLOMと交流し、様々なLOMを見る機会をいただきました。客観的に札幌青年会議所を見ることができるようになった私は、あらためて、この札幌青年会議所を築き上げた先輩諸氏の偉大さを実感するとともに、札幌青年会議所の一員であることに強く誇

りを持ったのであります。全国で2万名を超える会員、600を超えるLOM、青年会議所には多くの機会が眠っているのです。出会いは、あなたの人生をより豊かにするでしょう。

【生産性の高い組織へ】

Google社が4年間の歳月をかけ「成果を上げるチームはどんなチームか」の研究を行い、出た答えは「チームがどのように協力しているか」が重要であるということでした。現代のような目まぐるしく変化し続ける時代において、組織の活性化を図るには心理的安全性が必要なのであります。心理的安全性が高く言いたいことが言える環境は、組織のガバナンスが崩壊し、ぬるい、ゆるい組織になると思う人もいるかもしれません。しかし、組織の目標やビジョンを明確に共有され、組織が一丸となっていれば、能動的な行動により、高い生産性を生むのです。

また、組織改革を行っていく上で、重要となるのが最上位の目的に立ち返ることです。会議一つとってもそうであります。重箱の隅をつつくような意見ばかりで、会議を重ねる毎に広げた風呂敷を畳むようなことになっていないでしょうか。何のために会議を行っているのだろうか、我々はJAYCEEとして常に目的思考を持って行動しなければなりません。組織である以上、ルールに基づいて組織運営を行う必要があります。しかし、歴史や伝統を重んじる中で、本来の目的を見失っているルールは変えていく必要があるのです。

【結びに】

青年会議所は、まちについて本気で想い行動を起こすことができる人財を生み出すファームであります。まちの未来を担う青年に種を蒔くだけではなく、我々自身がまちを牽引するリーダーとならなければいけないのです。

札幌のまちの未来を想い、まちを牽引していくリーダーを一人でも多く輩出することが、明るく豊かな札幌の未来への最大の近道であると考えています。

自己成長のため、人脈をつくるため、仕事につなげるため

まずは自分のためでもいい

「なぜJCをやっているのか」

あなたの理念を強く持ち、JC活動で愛を受け継ぎ、

共に愛を届けていこうではないか